

## 2 特別講演

### 2. 1 Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist (生物分野)

#### (1) 研究開発の課題 (研究概要)

SSHの講演会では、研究室の中で行うミクロな研究内容の講演が多い。今回の講演は、生徒の少ない体験でも、想像しやすくわかりやすいテーマ（ニホンザルやチンパンジーの学習行動）を選び、京都大学霊長類研究所マイケル・ハフマン准教授に講演を依頼して、フィールドワークによる研究の面白さおよびその重要性を紹介していただいた。また、講演は英語を主体としたものとし、英語による講演を聞く機会を与える。

#### (2) 研究開発の経緯

動物の行動を授業で扱ったあと、理解や興味を深めるために京都大学霊長類研究所のマイケル・ハフマン准教授に講師を依頼した。

#### (3) 研究開発の内容

##### ア 仮説 (ねらい、目標)

本事業は科学への関心や英語コミュニケーション力などの「科学リテラシー」や「国際性」を促すことができる。

##### イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH生物特論

対象生徒 普通科3年理系生物選択者

日時場所 6月29日(金)本校 生物講義室

##### 実施内容

講演 演題 「Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist」

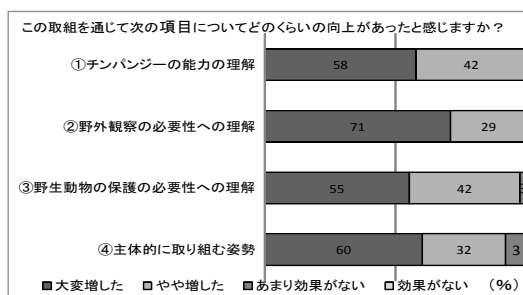
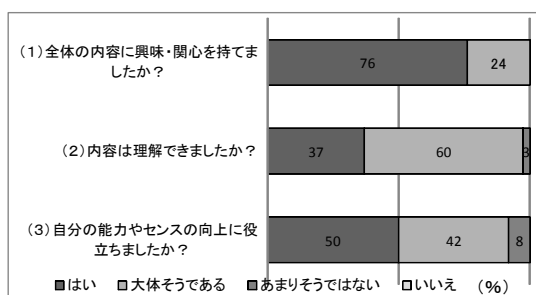
講師 京都大学 霊長類研究所 准教授 マイケル・ハフマン 先生

内容 サルの観察の方法、チンパンジーの薬草の利用、ヒトへの応用



熱心に聴く生徒たち

##### ウ 検証 (成果と反省)



#### 生徒の感想から

- ・人間と同じようにチンパンジーもその地に適応した道具を使うことに驚きました。薬についても、自然の中で発見して文化としていくことに面白さを感じました。
- ・幼い頃から興味を持っていたサルを、実際に一緒に暮らして「サル」になることでたくさんのお話を学ぶ姿勢がすごいと思いました。「相手の立場になって物事を経験する」ことは様々な場面で大切だと思うので、私もそんな姿勢を大切にしたいです。
- ・生物を相手にする研究は地道な方法によるものが多いけど、細かな観察によってここまで多くのことが発見できるのだとびっくりした。

アンケート結果や感想から、生徒にとって実験室での研究だけではなく野外観察について興味・関心が高まったことがわかる。丁寧に説明していただいたので、ほぼ全て英語での講演であったがよく理解できていた。研究への熱意を強く感じた生徒も多く、有効な取り組みであったといえる。この方式で来年度も続けて計画していきたい。